

## ROS1 融合遺伝子陽性の若年発症肺腺癌の 1 例

川上麻里絵<sup>1)</sup>、寺内利恵<sup>1)</sup>、竹中美千穂<sup>1)</sup>、大兼政良育<sup>1)</sup>、津幡裕美<sup>1)</sup>、高田麻央<sup>1)</sup>、清水瞭<sup>1)</sup>、山下学<sup>1)</sup>、塩谷晃広<sup>1,2)</sup>、熊谷泉那<sup>3)</sup>、山田壮亮<sup>1,2)</sup>

金沢医科大学病院 病院病理部<sup>1)</sup>、金沢医科大学 臨床病理学<sup>2)</sup>、金沢医科大学 病理学 II<sup>3)</sup>

**【症例】**20 代男性。主訴は心窩部不快、嘔気。前医で心嚢水貯留を指摘され、当院を受診。

**【CT 所見】**心嚢水、胸水、腹水が貯留し、肺野には小粒状影が多発し、小葉間隔壁肥厚を認めた。**【心嚢水細胞所見】**核の大小不同、クロマチン増加を示す異型細胞を認めたが、患者が若年者であったため反応性中皮と診断した。最終的にはセルブロックの免疫染色、遺伝子検査より ROS1 融合遺伝子陽性の肺原発腺癌と診断した。